

「龍頭が滝案内」 第4回

「滝神社には参道があったらしい」

今回は「松笠村誌」で滝神社をさらに紹介します。

明治5(1876)年9月24日、明治政府は各府県に対し人口、戸数、面積、寺社の状況などを記した地誌の提出を命じます。各府県で編集事業が開始され、島根県の各村でも作成されました。調査時点は、明治9年1月1日。松笠村の地誌も残っています。これが松笠村誌です。

その中でこう書かれています。

瀧社 村社 社地 東西壹丁七間 南北貳間 面積六畝貳拾五歩村ノ南方ニアリ

伊弉册命速玉男命事解男命ヲ祭ル

明治五年 村社ニ列セラレ祭日十月八日 社地老樹アリ

滝神社の合祀は明治40年10月30日。松笠村誌の編纂時期を明治9年頃とすると、まだ滝神社は龍頭が滝に鎮座されていました。

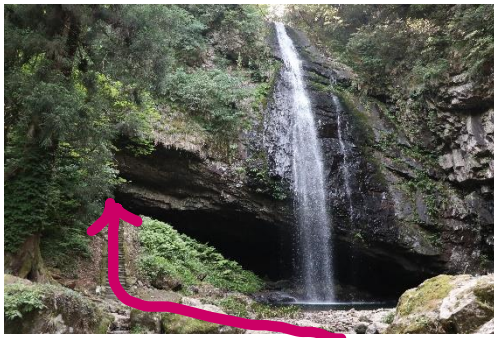
注目したいのは点線の部分です。

丁（町とも書きます）とは長さの単位で、1丁=1町=109m。1間は1.8m。すると、「東西壹丁七間」は122m（109m×1+1.8m×7）、「南北貳間」は、3.6m（1.8m×2）です。

龍頭が滝は東に向いていますから、滝から幅3.6m、長さ122mほどの細長い社地が、滝つぼから滝谷川沿いに伸びていたことになりませんが、これは参道だと思われます。

松笠村誌には「社地老樹アリ」と書かれていますから、参道は、現代の階段の遊歩道と同じコースだったのかもしれませんが。

もしそうなら、私たちは、滝神社の参道を歩いていることになりますね。



参道はこんな感じで伸びていた？！